

我等の世界

真宗念仏の世界は、豎たてに無限絶対なる如来の大悲本願によつて、仏凡一体の關係にあると共に、横よこに同朋と信心のまことによつて結ばれて、一つの美しい世界を出現するのである。

特に親鸞聖人は、弟子一人も持たずと宣言し、御同朋御同行と念仏の人を敬愛されたのである。はるばる命がけで常陸の国より京都まで、道を問ひ、法を求めて来た人たちに對してすら『詮ずるところ愚身の信心におきてはかくの如し、このうへは念仏をとりて信じたてまつらんとも、またすてんとも面々の御はからひなり』と、自由の天地に人を解放して、信ずるところを強いつけず、威力をもつて人を征服せず、教権をもつて人を束縛せず、ただ、自ら信ずるところを行じて、その離合集散を因縁にまかせ、何人をも宗教の名において所有しようと思はれなかつた。

あまりにも美しく清浄ではないか。それは、如来浄土の清浄光に洗われ、真実智慧によつて人間の我執自力、邪見傲慢が限りなく否定せられた、信心の智慧による和の成就である。我等の生活もまた、この聖人の生活の如く成就されねばならない。

我等は一人一人が信心決定して念仏することによつて、平等なる信によりて自然に結ばれていなければならない。『いかにたからものを仏前にもなげ、師匠にもほどこすとも、信心かげなばその詮なし。一紙半銭も仏法のかたにいれずとも、他力にころをかけて信心ふかくば、それこそ願の本意にてさふらはめ。』(歎異抄)

利によつて集まるものは利によつて去り、名によつて集まるものは名によつて散る。

名利權勢を求めて集まらず、立身出世を求めて集まらず、主義によつて徒党を組まず、不平愚痴をもつて集まらず、善悪によつて結ばれず、学歴によらず、男女老若によらず、規約によらず、かくして人間の発する何ものにもよらず、したがつて人間のあらゆる心を持ち合わせつつ、ただ、自然にして、謀はからわざるに、如来本願力廻向の大信心によつて結ばれ、一味平等なる法味樂の調和によつてのみ、我等の世界は成就されるのである。

我らの歩みは、法則がここにあつた。それは一見まことになまぬるい、あまりにも悠長ゆうちやうな考え方のようである。しかもこの淡々として水の如き自然の結合こそ、一番美しく、また一番和の早道であることを我等の同朋は立証した。

念仏の同朋の集いは美しい。

我らは唯信の世界に一味平等である。善悪によつて裁いてはならない。我慢を張つて同朋の間に威勢を行じてはならない。謙讓の徳によつて下座に居り、互いに助け合い、讚嘆し合い、尊敬し合い、互いに同行善知識となつて、美しい華園を出現しなければならない。

我等の集いは、仏徳による人格的なものでなければならない。